

ヒグマによる人身事故発生状況

2021年度1例目

項 目	内 容	
概 要	山菜採りをしていたところ、ヒグマと遭遇し、頭部に損傷を受け死亡	
発 生 日 時	令和3年（2021年）4月10日 午前10時40分頃	
発生場所及び付近状況	住 所	厚岸町床譚（道有林内）
	付近の状況	町道から600mほど入った山林 狭い沢地形右岸から高さ10m程度上がった地点
被害者情報	居住市町村	釧路市在住
	年齢・性別 被害の状況	60才・男性 死亡
	鳴り物の携帯	有（クマ鈴）
発 生 状 況	被害者の行動	山菜採り（複数行動、同行者から100～200m先行）
	発生時間帯等	日中、晴れ、無風
加害個体の特徴	行動形態	親子（0歳の子グマ1頭が死亡した状態で発見）
	痕跡	冬眠穴、立木に挟まり死亡した子グマ （いずれも発生場所から約40mの地点）
	逃避行動等	子グマが立木に挟まれ動けず、母グマがその場を離れられない状況に陥っていたと推測
対 応 状 況	加害個体への対応	問題個体に該当しないと判断、捕獲は行わない （周辺をパトロールして警戒）
	住民への対応	現地に注意喚起の看板を設置、住民への周知 付近の道有林の入山禁止（林道ゲート閉鎖）
考 察	発生要因	<ul style="list-style-type: none"> ・子グマが立木に挟まれ動けず、その場を離れられない状況の母グマが接近する被害者を攻撃したものと推測 （被害者はクマ鈴を持参しており、ヒグマは被害者の接近に気がついていて可能性が高い） ・被害者が同行者より大幅に（100～200m）先行していたこと
	対策	クマスプレーを適切に使用していればヒグマの攻撃を止められた可能性が高い
そ の 他		

ヒグマによる人身事故発生状況

2021年2例目

項 目	内 容	
概 要	ハンターがヒグマに襲われ、全身多発外傷（咬創、裂傷、開放性骨折、粉碎骨折）を受けた	
発 生 日 時	令和3年（2021年）4月27日 午前8時35分	
発生場所及び付近状況	住 所	富良野市西達布たちばな
	付近の状況	麦畑脇の尾根の中腹 針広混交林で林床植生の笹はシカの食害でまばら
被 害 者 情 報	居住市町村	富良野市在住
	年齢・性別 被害の状況	48才・男性 負傷
	鳴り物の携帯	なし
発 生 状 況	被害者の行動	手負い個体逃走の情報があり、警戒活動実施。森林内の斜面を下る途中、突如として左側斜面の上からヒグマの襲撃を受けたもの。（同行者あり、約40mの距離）
	発生時間帯等	日中、晴れ、北風1.8m/s
加害個体の特徴	行動形態	親子（子グマ（0歳）は事故後、行方不明） 当日早朝、別のハンターが当該個体捕獲のため、発砲し命中するもそのまま逃走。
	痕跡	前日にヒグマの目撃情報があるが、子連れの情報はなため、別個体の可能性あり。
	逃避行動等	なし
対 応 状 況	加害個体への対応	同行者がその場で捕獲
	住民への対応	現地に注意喚起の看板を設置（2カ所）、住民への周知
考 察	発生要因	・手負いのまま逃走した個体による襲撃
	対策	・狩猟及び捕獲を行う際には、役割分担について事前に十分打合せの上、常に複数人が互いに視認できる範囲で行動する ・手負いグマの追跡及び捕獲にあたっては探索者と護衛のペアで行動するなど、特段の注意を払う
そ の 他	追加の聞き取り調査により、詳細な状況が判明したため更新したもの。 （報道関係の皆様へ）本件について、取材はご遠慮いただきたい旨、被害者本人から申し出がありました。	

ヒグマによる人身事故発生状況

2021年度3例目

項 目	内 容	
概 要	間伐踏査のため入林した作業員がヒグマに襲われ負傷した。	
発 生 日 時	令和3年（2021年）6月14日 午前10時50分頃	
発生場所及び付近状況	住 所	厚岸郡厚岸町トライベツ（国有林207い林小班）
	付近の状況	トドマツ主体の人工林 林床植生はミヤコザサ（シカ食害でまばら）及びアキタブキ 斜面約240m下方に沢が流れるが、水音は聞こえない。
被 害 者 情 報	居住市町村	釧路市在住
	年齢・性別 被害の状況	67才・男性 負傷
	鳴り物の携帯	クマ鈴携帯。呼子・爆竹も所持していたが使用せず。
発 生 状 況	被害者の行動	間伐踏査のため2名で入林。樹幹にカラスプレーを吹き付けながら斜面を横断中。
	発生時間帯等	日中、晴れ、風はほとんどなし
加害個体の特徴	行動形態	不明（採取体毛の遺伝子分析の結果、メスの可能性が高い）
	痕跡	周辺にエゾシカ新生児の死骸があったが、本件との関係は不明
	逃避行動等	被害者を襲撃後、同行者に反撃されると斜面下方に逃走。
対 応 状 況	加害個体への対応	搜索、捕獲等を行わない
	住民への対応	周辺国有林の立入禁止措置を実施
考 察	発生要因	襲撃に至った要因は不明。
	対策	周辺に気を配りながら作業を行うことで、襲撃前にヒグマの存在に気づき、クマスプレーを適切に使用すれば、被害を防止できた可能性がある。
そ の 他		

ヒグマによる人身事故発生状況

2021年度4例目

項 目	内 容	
概 要	札幌市東区の住宅街に出没したヒグマが市民4人を相次いで襲ったもの。	
発 生 日 時	令和3年(2021年)6月18日 5時55分～7時58分	
発生場所及び付近状況	住 所	札幌市東区北19条～丘珠町
	付近の状況	住宅が建ち並び、商業施設等も混在する住宅地 自衛隊駐屯地入り口
被 害 者 情 報	居住市町村	いずれも札幌市在住
	年齢・性別 被害の状況	(1人目) 75歳 男性 軽傷 (2人目) 80歳 女性 軽傷 (3人目) 40歳代 男性 重傷 (4人目) 41歳 男性 軽傷
	鳴り物の携帯	不明
	被害者の行動	(1、2人目)ゴミ出し後、自宅に戻る途中 (3人目)歩行中 (4人目)駐屯地警衛中、ヒグマを確認し、閉門を試みたところ
発 生 状 況	発生時間帯等	5時55分～7時58分 晴れ、風速2m(気象観測データによる)
加害個体の特徴	行動形態	オス。ゴミを漁るなどの形跡は無し。 (1、2人目)転倒した被害者を踏んで乗り越えた際に爪で加害 (3人目)背後から被害者の右上腕部を一撃し、引き倒したのち 噛みついて加害(合計4回加害) (4人目)門を突破し、転倒した被害者に噛みついて加害
	痕跡	2時28分に篠路で、3時28分に北31条東19条目で目撃
	逃避行動等	いずれも被害者を攻撃後、逃走。
対 応 状 況	加害個体への対応	猟友会により警察官職務執行法に基づき駆除。
	住民への対応	出没中は警察のパトカーにより周辺住民に注意喚起を実施。 札幌市も注意喚起を実施。
考 察	発生要因	当該個体が何らかの理由により市街地に侵入し、逃走する際に出会った人に攻撃したもの。加害個体が報道機関や市民に見つかり、興奮状態が高まったことも一因と考えられる。
	対策	市街地にヒグマを侵入させないため、出没経路の遮断に加え、近隣市町村でヒグマの出没情報を共有し、早期に対応する。 市街地出没時、周辺住民へ自宅待機を効果的に呼びかける。
そ の 他		

ヒグマによる人身事故発生状況

2021年度5例目

項 目	内 容	
概 要	畑に来ていた被害者がヒグマに襲撃され死亡したとみられる。	
発 生 日 時	発見：令和3年（2021年）7月2日 10時22分	
発生場所及び付近状況	住 所	松前郡福島町白符
	付近の状況	被害者が手入れをしていた畑にスギ林が隣接。 スギ林の林床植生はササが繁茂（高さ80cm）。 被害者発生位置周辺には高さ2mのオオイタドリが繁茂。
被 害 者 情 報	居住市町村	福島町在住
	年齢・性別 被害の状況	77才・女性 死亡
	鳴り物の携帯	なし
発 生 状 況	被害者の行動	7月1日朝、農作業のため現場の畑に向かうと言い外出。
	発生時間帯等	時間不明、晴れ、東北東の風3.9m（気象観測データによる）
加害個体の特徴	行動形態	オス（被害者にはオオイタドリやササの葉がかけられていた）
	痕跡	被害者発見位置そばにフン及び直径70cm深さ20cm程度の穴を発見。
	逃避行動等	不明
対 応 状 況	加害個体への対応	捕獲のため、箱わなを設置
	住民への対応	周辺住民へ防災無線などで注意喚起を実施。
考 察	発生要因	襲撃に至った要因は不明。
	対策	複数人で農作業を行っていたら助かった可能性がある。
そ の 他	本件は、事故当時の目撃者がいないが、現場や被害者の状況等から、ヒグマによる人身事故である可能性が極めて高いと判断し、本報告を作成したもの。	

ヒグマによる人身事故発生状況

2021年度6例目

項 目	内 容	
概 要	浮島湿原に向かう林道を歩行中、ヒグマに襲われ死亡したとみられる。	
発 生 日 時	令和3年（2021年）7月12日 11時30分頃（推定）	
発生場所及び付近状況	住 所	紋別郡滝上町
	付近の状況	林道（浮島湿原方面に向かって左カーブの屈曲点。両側は急斜面で谷側はフキ、イラクサが膝上から胸高程度まで繁茂。）
被害者情報	居住市町村	神奈川県横浜市在住
	年齢・性別 被害の状況	69才・女性 死亡
	鳴り物の携帯	なし
発生状況	被害者の行動	浮島トンネル滝上町側出口の駐車帯にレンタカーを止め、浮島湿原方向に向かって林道を歩行。
	発生時間帯等	11時30分頃（推定） 曇りもしくは雨、東北東の風 1.5m（気象観測データによる）
加害個体の特徴	行動形態	メスの可能性が高い。親子グマの可能性もあり。
	痕跡	被害者発見位置そばにフン及び足跡発見。（一部の足跡は子グマの可能性もある。）
	逃避行動等	不明（被害者が持っていた食物が荒らされた形跡なし。）
対応状況	加害個体への対応	なし
	住民への対応	周辺林道を立入禁止。児童の集団登下校、クマ鈴配布等を実施。
考 察	発生要因	周囲の状況及び遺体の状況から、人間とヒグマがお互いに気がつかないまま接近・遭遇し、ヒグマの防御的行動により発生した事故の可能性が高い。 また、母グマが子グマを守る防御行動であった可能性もある。
	対策	複数人での行動、クマ鈴等鳴り物の携行、ヘルメット等の着用及びクマスプレーの適切な使用等の対策により、事故発生の防止や被害の軽減ができた可能性がある。
そ の 他	本件は、事故当時の目撃者がいないが、現場や被害者の状況等から、ヒグマによる人身事故である可能性が極めて高いと判断し、本報告を作成したもの。	

ヒグマによる人身事故発生状況

2021年度7例目

項 目	内 容	
概 要	畑で草刈りをしていた親子2名がヒグマに襲われ負傷した。攻撃したヒグマは現場付近でくくりわなに錯誤捕獲され、事故直前に脱出したものとみられる。	
発 生 日 時	令和3年(2021年)8月7日 10時30分	
発生場所及び付近状況	住 所	網走郡津別町
	付近の状況	畑(林縁から約6m。樹林帯にはヤナギ、ケヤマハンノキが繁茂し、林縁付近にはセイタカアワダチソウ及びエゾヨモギが高さ1m程度で繁茂)
被 害 者 情 報	居住市町村	津別町在住
	年齢・性別 被害の状況	(親)66歳・女性 負傷 (子)33歳・女性 負傷
	鳴り物の携帯	不明
発 生 状 況	被害者の行動	午前9時頃から2人で雑草取りの作業開始。事故現場付近に進んだところ、突如ヒグマから攻撃を受けた。
	発生時間帯等	10時30分 晴れ、風速2.5m(気象観測データによる)
加害個体の特徴	行動形態	オス。 被害現場から約18m付近に設置されたエゾシカ用のくくりわなに錯誤捕獲されていたが、事故直前に外れたとみられる。
	痕跡	くくりわなから半径3m程度の植生がなぎ倒され、立木が折られていた。くくりわなには毛が付着。
	逃避行動等	被害者を攻撃後、逃走。
対 応 状 況	加害個体への対応	事故後、猟友会によるパトロールを実施。
	住民への対応	周辺に注意看板設置。
考 察	発生要因	ヒグマがエゾシカ用くくりわなに錯誤捕獲され動けない状況となっていたところに、被害者が接近し、ヒグマがたまらず動いた弾みにわなが外れ、防衛的に攻撃したものとみられる。
	対策	くくりわなを設置している場合は、できる限り頻繁に見回りを行うとともに、錯誤捕獲の可能性もあることから周辺に近づかないよう十分に注意喚起する。
そ の 他		

ヒグマによる人身事故発生状況

2021年度8例目

項 目	内 容	
概 要	狩猟のために入林した被害者がヒグマに襲われ死亡したとみられる。	
発 生 日 時	令和3年（2021年）11月24日 昼頃	
発生場所及び付近状況	住 所	夕張市
	付近の状況	山林（トドマツ造林地で広葉樹も混交。林床は腰～胸の高さまでササが密生。）
被 害 者 情 報	居住市町村	江別市在住
	年齢・性別 被害の状況	53歳・男性 死亡
	鳴り物の携帯	なし
発 生 状 況	被害者の行動	当日早朝から狩猟のために入林。林道に車両を止め斜面を約150m下ったところでヒグマに襲われたものとみられる。現場には被害者がヒグマに向け発砲した痕跡あり。（発砲のタイミングなど詳細な状況は不明。）
	発生時間帯等	昼頃（警察の検視による。） 曇り、風速 1.9～4.0m（気象観測データによる）
加害個体の特徴	行動形態	オス。（周囲に残された血痕のDNA分析による） ヒグマの行動は不明であるが、被害者の遺体や荷物を荒らした形跡はない。
	痕跡	周囲のササ等に血痕付着。
	逃避行動等	被害者を攻撃後、逃走したものとみられる。
対 応 状 況	加害個体への対応	なし。 なお、当面は現場付近での山林作業は中止。
	住民への対応	なし。（現場周辺は山中で、通常一般住民の立入はないため。）
考 察	発生要因	現場の状況から、加害個体が積極的に襲撃したのではなく、出会い頭の攻撃など、防御的な攻撃である可能性が高い。
	対策	狩猟は複数名で行動することが望ましい。 狩猟中は常にヒグマに遭遇する危険性があることを念頭に行動する。
そ の 他	本件は、事故当時の目撃者がいないが、現場や被害者の状況等から、ヒグマによる人身事故である可能性が極めて高いと判断し、本報告を作成したもの。	

ヒグマによる人身事故発生状況

2021年度 9例目	
項目	内 容
発生日時	令和4年(2022年)3月31日 14時30分
発生場所及び付近状況	住 所 札幌市西区
	付近の状況 三角山 自然歩道「三角山～盤渓ルート」
被害者情報	居住市町村 札幌市在住
	年齢・性別 被害の状況 48歳・男性A 軽傷 59歳・男性B 軽傷
	鳴り物の携帯 有(クマ鈴等是不携帯、クマスプレー携帯)
発生状況	被害者の行動 <ul style="list-style-type: none"> ・冬眠穴調査時に、男性Aが穴付近でヒグマから攻撃を受けたため、男性Bがクマスプレー噴射 ・噴射後、ヒグマは男性Bへ攻撃し、男性Aがクマスプレー噴射 ・その後、ヒグマは逃走
	発生時間帯 14時30分頃
加害個体の特徴	行動形態 メス 冬眠穴内に0歳子2頭を確認 被害者の情報では、体長1.5m程度
	痕跡 冬眠穴内部及び入り口にて体毛を採取
	逃避行動等 被害者を攻撃後、逃走
対応状況	加害個体への対応 なし
	住民への対応 <ul style="list-style-type: none"> ・SNSを活用して住民に注意喚起 ・登山口3箇所の閉鎖
考察	発生要因 現場が都市部に隣接した山林で、ヒグマの冬眠穴である可能性は低いという思い込みから、接近時に攻撃された
	対策 <ul style="list-style-type: none"> ・都市部に隣接した山林であってもヒグマは冬眠適地として利用することがあるという認識をする ・冬眠穴には不用意に近づかない
その他	